

この問題は、経済学部において実施される筆記試験のサンプル問題です。

※実際に出题される問題とは異なります。

2027 年度入試 経済学部 筆記試験（サンプル問題）

2027 年度総合型選抜入学試験及び特別入試の筆記試験では、以下の内容を予定しています。

- ✓ 国語
- ✓ 数学

1. 国語について

漢字の書き取り、文書要約、論述を予定しています。以下にサンプル問題を示します。なお、サンプル問題では、1 つの文書に対して問題を作成していますが、文書が 2 つ以上になる可能性もあります。また、漢字の書き取りは 5 題程度を予定しています。

国語のサンプル問題

以下の文を読み以下の問いに答えなさい。

訪日外国人旅行者数は、2019 年までは、ビザの戦略的緩和や外国人旅行者向け消費税免税制度の⑦カクジュウ、税関・出入国管理・検閲体制の充実といった施策を進めるとともに、航空・鉄道・港湾等の交通ネットワークの充実、多言語表記をはじめとする受入環境整備、⑧ミリョクテキシなコンテンツの造成、日本政府観光局（JNTO）等による訪日プロモーション等により、過去最高を更新していたが、2020 年から 2022 年までの訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年間を通じて大きく減少した。

その後訪日外国人旅行者数は、2022 年 6 月の外国人観光客の受入再開、同年 10 月の水際⑨ソチの大幅緩和等により徐々に回復しはじめ、2023 年 10 月には 2019 年同月水準を超えた。⑩2024 年には、堅調な訪日需要や航空便の回復により、東アジアのみならず、東南アジアや欧米豪等の幅広い国・地域からの旅行者が増加し、年間で 3,687 万人（2019 年比 15.6%増）と過去最高を記録した。

2024 年の訪日外国人旅行者数を国・地域別にみると、アジア主要市場からの訪日外国人旅行者数が 2,906 万人となり、全体の 78.8%を占めた。東アジアでは、韓国が 882 万人と主要 23 市場のうちで最も多く、中国 698 万人、台湾 604 万人、香港 268 万人と続き、全体の 66.5%を占めた。韓国、台湾及び香港からの旅行者数は過去最高を記録した。東南アジアは、ASEAN（東南アジア諸国連合）の主要 6 市場からの訪日外国人旅行者数が 430 万人となり、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン及びベトナムからの旅行者数は過去最高を記録した。北米主要市場からの訪日外国人旅行者数は 330 万人となり、米国及びカナダからの旅行者数は過去最高を記録した。また欧州主要 6 市場からの訪日外国人旅行者数は 171 万人となり、それらの国・

地域からの旅行者数は全て過去最高を記録した。オーストラリアからの訪日外国人旅行者数は92万人となった。その他の地域では、南米が16万人、アフリカが5万人であった。

次に、2024年の訪日外国人旅行消費額は8兆1,257億円（2019年比68.8%増）と、2023年に続き過去最高を更新した。国籍・地域別にみると、中国が最も大きく、次いで台湾、韓国、米国、香港の順であった。2019年と比較すると、中国の構成比が低下した一方、韓国や米国等の構成比が上昇した。2024年の訪日外国人旅行消費額を費目別にみると、全体に占める割合では、宿泊費が33.6%と最も高かった。

一方、世界の国際会議開催状況をみると、2020年以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催件数が大幅に減少したが、2023年には新型コロナウイルス感染拡大前の2019年の約65%まで回復した。地域別にみると、欧州では2019年比で約70%、北米では同年比約65%まで回復している一方、アジアでは同年比約55%にとどまっており、国際会議の再開は、2023年時点では、欧米と比べるとアジアでは回復が遅れている様子がみられる。アジア大洋州における国・地域別の国際会議開催件数をみると、2023年は日本が1位となった。ただし、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年比での開催件数の回復度合いをみると、日本は、約65%の回復にとどまっており、新型コロナウイルス感染拡大前の水準に戻った韓国、シンガポール等と比べて回復が遅れている。

出所：『国土交通省』「令和7年度版観光白書」より抜粋、一部改変。

(1) 下線部㉑から㉒のカタカナを漢字にせよ

(2) 文章を200字で要約せよ

(3) 下線部㉓に関連して。観光客の増加に伴い、観光施設や飲食店ではサービス品質の維持が課題となっています。課題解決の施策として、訪日外国人観光客に日本人より高い料金を払ってもらう「二重価格」がありますが、課題もあり様々な議論があります。訪日外国人観光客に対する二重価格についてあなたが考える課題をあげ、それに対する解決案を200字で述べなさい。

2. 数学について

小問とデータの分析に関する問題を予定しています。以下にサンプル問題を示します。小問は5問程度を予定しています。

小問のサンプル問題

以下の問いに答えなさい。

- (1) 2次関数 $y = -x^2 - 4x + 3$ ($-3 \leq x \leq 1$) は $x = \boxed{\text{ア}}$ の時、最大値 $y = \boxed{\text{イ}}$ をとり、 $x = \boxed{\text{ウ}}$ の時、最小値 $y = \boxed{\text{エ}}$ をとる。空欄アからエに入る値を求めよ。

- (2) 不等式 $\cos \theta < -\frac{\sqrt{3}}{2}$ を満たす θ の範囲を求めよ。ただし、 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ とする。

- (3) サイコロを2回投げたとき、出た目の和が8以上になる確率を分数で求めよ。ただし約分できる場合は約分すること。

データ分析のサンプル問題

表1は電力構成について、主要国の発電電力量と電源別発電電力量を示している。表1に基づいて、以下の問いに答えなさい。

- (1) アメリカと中国を除いた主要国の中で、原子力による発電電力量が最も多い国を答えなさい。
- (2) ブラジルとカナダを比べた場合、二酸化炭素を排出する石炭、石油、天然ガスによる発電電力量が多いのはどちらか答えなさい。
- (3) 日本とインドを比べた場合、水力、太陽光・風力による発電電力量が多いのはどちらか答えなさい。

表1 主要国の発電電力量(億キロワット時)と電源別発電電力量の構成比(%)

	発電電力量 (億キロワット時)	電源別発電電力量の構成比(%)						
		石炭	石油	天然ガス	原子力	水力	太陽光・風力	その他
アメリカ	44,730	20.4	1.0	38.9	18.0	5.7	14.1	1.9
イギリス	3,220	2.0	0.6	39.0	14.8	1.8	29.1	12.7
イタリア	2,820	8.6	4.6	50.1	0.0	10.1	17.5	9.2
インド	18,140	72.0	0.3	3.0	2.5	9.6	10.2	2.3
カナダ	6,510	4.0	0.8	12.7	13.4	61.1	6.6	1.4
韓国	6,100	33.9	1.1	27.9	28.9	0.6	6.0	1.7
中国	89,110	62.0	0.1	3.0	4.7	14.7	13.4	2.1
ドイツ	5,740	33.0	0.9	15.0	6.0	3.1	32.5	9.5
日本	10,100	30.9	4.0	34.0	5.6	7.6	11.7	6.2
ブラジル	6,770	2.1	1.5	6.2	2.1	63.1	16.5	8.5
フランス	4,690	1.3	1.4	9.7	62.8	9.7	12.5	2.6
ロシア	11,490	16.3	0.8	45.2	19.4	17.2	0.7	0.4

出所：IEA, World Energy Balances より引用・抜粋、一部改変。

注：四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。